

# af News

## 2016年度 研究助成金贈呈式

旭硝子財団は、6月9日午前、関係者列席のもとに経団連ホールにて研究助成金贈呈式を開催しました。石村理事長による開会の挨拶、白波瀬佐和子選考委員長による選考経過の説明に続いて、理事長から助成金受領者の方々へ贈呈状が手渡されました。引き続き、鈴木敏之・文部科学省研究振興局学術研究助成課長よりご祝辞をいただきました。最後に、助成金受領者を代表して塚谷裕一・東京

大学教授からご挨拶があり、贈呈式を終えました。その後、別会場で懇親パーティーが行われました。国内で新規に採択された助成研究は83件、これに過年度からの継続分23件を合わせ、国内の研究助成総額は2億3,800万円です。  
☞ 本年度に新規採択された助成研究については、当財団のホームページ[研究助成→採択一覧]をご参照ください。



石村理事長による贈呈状の授与



受領者代表  
塚谷裕一 東京大学教授



## 第25回ブループラネット賞 受賞者紹介

旭硝子財団は、地球環境問題の解決に向けて貢献をした個人または組織に対して、その業績を称える地球環境国際賞「ブループラネット賞」を1992年に創設し、以来毎年2件の表彰を継続しています。

### パバン・シュクデフ氏(インド)

国連環境計画 (UNEP) 親善大使  
GIST (Green Indian States Trust) 創設者・理事  
GISTアドバイザー 設立者・CEO  
エール大学ダヴェンポートカレッジアソシエートフェロー

#### 【受賞理由】

シュクデフ氏は、包括的グリーン経済に移行するための経済的合理性を有する実用的な測定基準を開発した先駆者である。この移行には企業こそが決定的な役割を果たすことを示し注目を集めた。さらに氏は、公共政策と経済活動に、生態系サービスの価値を如何に組み込むかを示し、持続可能性に向けた基準を企業、地方、国家の各レベルで開発し、包括的グリーン経済の発展を加速させた。



### マルクス・ボルナー教授(スイス)

グラスゴー大学名誉教授  
フランクフルト動物協会アフリカプログラム前ダイレクター  
ネルソンマンデラアフリカ工科大学 (タンザニア) 助教授

#### 【受賞理由】

ボルナー教授は、過去40年間、アフリカにおける絶滅寸前の野生生物保護や保護区内生態系の保全・管理活動の最前線に立ってきた。教授は、個々の種の保全には、生態系全域での総合的保全が必要であり、セレンゲティ国立公園の場合はタンザニア国民が生態系の保全に対してコミットし、貢献することが必要であることを看破した先駆者の一人である。活動の指針として、我々が住む惑星を健全に生存させるには、手つかずの自然、種の多様性、自然美が絶対的に不可欠であるという原則を掲げている。



## 顕彰事業の理解促進および協力者拡大の活動

旭硝子財団は顕彰事業を広く国内外で知ってもらい、ブループラネット賞のノミネーターや環境アンケート回答者を拡大するとともに、環境問題に対する一般認識の向上を図っています。

3月7日に環境省主催で開催された「事業活動と生物多様性に関するシンポジウム」に出席し、環境危機時計®について展示を行いました。

また、9月2日から10日にかけてハワイで開催された国際自然保護連合 (IUCN) 主催の「第6回世界自然保護会議 (WCC6)」へ出席、一般の方々も入場できる会場に旭硝子財団のブースを出展し、ブループラネット賞についての説明や歴代受賞者による共同論文の展示、地球環境アンケート、環境危機時計®についての説明、子供向けコミック「ぐりとウッドンの水の王国だいぼうけん」等財団の活動を多くの方々に紹介しました。中でもコミックは、子供向けの環境教育の教材として教育関係者の方々の関心が高く、展示するとすぐなくなってしまう大変な人気でした。

ブース出展の他開催期間中の9日には、第25回「地球環境問題と人類の存続に関するアンケート」調査結果の記者発表を行い、安田事務局長による調査結果の説明と2016年の環境危機時計®の時刻の発表も行いました。発表に続く質疑応答では参加者からたくさんの質問が寄せられ、安田事務局長との間で活発なやりとりがされました。



3月：事業活動と生物多様性に関するシンポジウムにて



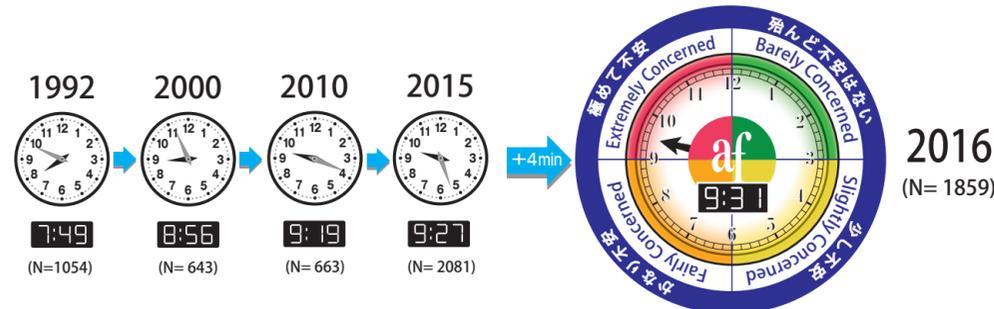
9月：第6回世界自然保護会議にて



記者発表



質疑応答



## 『ブループラネット賞ものがたり』開設

ブループラネット賞受賞者達が、地球環境を守り、次世代に引きついでいくため何を考え、どのように取り組んできたか、物語で紹介する「ブループラネット賞ものがたり <http://www.blueplanetprize.org>」を開設しました。



## 公益財団法人 旭硝子財団

〒102-0081 東京都千代田区四番町 5-3  
サイエンスプラザ 2階  
TEL (03) 5275-0620 FAX (03) 5275-0871  
URL <http://www.af-info.or.jp>  
E-MAIL [post@af-info.or.jp](mailto:post@af-info.or.jp)

## 2016 旭硝子財団 助成研究発表会 (国内)

7月29日、ホテルグランドヒル市ヶ谷において、助成期間を終えた研究プロジェクト73件の成果発表、ならびに助成期間中の大型研究プロジェクト13件の中間発表が行われました。発表者をはじめ、当財団の選考委員、ご来賓、さらには現在研究助成を受けている研究者など、多くの関係者にご出席いただきました。開会にあたり、安達専務理事の挨拶に引き続き、白波瀬佐和子選考委員長(東京大学教授)から開催にあたっての趣旨説明が行われました。その後、専門分野ごとに夕方まで3つのセッションに分けて、3分間スピー

チとポスターによる研究発表が行われました。それぞれのポスターの前では、専門分野の異なる研究者が集まって活発な意見交換が行われました。得られた成果についてだけでなく、今後どのような方向に研究を進展させるべきかといったことについて幅広くディスカッションが行われ、新たな学術共同関係が生まれるなど、大変に有意義な場となりました。発表終了後には同じ会場で懇親会が開かれ、参加者の方々による交歓が行われました。



安達邦彦 専務理事



白波瀬佐和子 選考委員長



3分間スピーチ発表会場



懇親会で挨拶する石村和彦 理事長



ポスター発表会場



懇親会場

## 海外研究助成金贈呈式ならびに研究成果発表会

### タイ・チュラロンコン大学(CU)

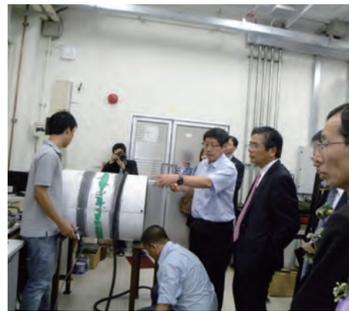


石村理事長、助成金受領者と関係者

6月21日、チュラロンコン大学において、研究助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。石村理事長と Kiat Ruxrungham 副学長からの挨拶に続いて、今年度の助成対象者10名に贈呈状の授与が行われました。セミナーでは、Prof. Dr. Sanong Ekgasit 教授による研究成果工業化へのタイの大学の新たな挑戦に関する記念講演に引き続き、2つのセッションに会場を分けて、合計10件の研究成果が発表されました。また、午後にはロボティクスと材料分析の研究室を見学しました。



セミナーでの発表



研究室見学



石村理事長による贈呈状の授与

### タイ・キングモンクット工科大学トンブリ校(KMUTT)

6月22日、キングモンクット工科大学トンブリ校において、研究助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。Bundit Fungtammasan 副学長による選考経過の説明、Sakarindr Bhumirata 学長の挨拶、石村理事長からの挨拶に続いて、新規助成対象者5名への贈呈状の授与やパネルによる研究予定内容の紹介が行われました。その後、過年度の助成対象者7名の研究成果が発表されました。午後には、バンクンティエンキャンパスツアーが行われ、パイオエンジニアリングへの精力的な取り組みが紹介されました。



セミナーでの研究成果発表



石村理事長と助成金受領者



Sakarindr 学長、石村理事長、助成金受領者と関係者

### インドネシア バンドン工科大学(ITB)

8月23日、バンドン工科大学の講堂において、研究助成金贈呈式と成果発表会が開催されました。研究期間を終了した16件のプロジェクトの研究成果発表が行われ、引き続き、学長の Kadersah Suryadi 教授、石村理事長の挨拶に続いて、助成対象者14名に贈呈状が授与されました。



研究成果発表会でのプレゼンテーション



Kadersah 学長、石村理事長、助成金受領者全員



Kadersah 学長と受領者と石村理事長



石村理事長による贈呈状の授与